

「是……的」文型と過去の意味について

栗原千里

1 当論文に於いては「主語＋是＋動詞句＋的」文型¹が表す過去の意味が如何様なる経緯を経て成り立っているのかを考えてゆきたいと思う。「主語＋是＋動詞句＋的」文型の表す過去の意味は「主語＋是＋動詞句＋的」文型と関連する複数要因が影響を及ぼし合うことに因って成り立っている、と云う観点に立って論を進めてゆきたいと思う。

2 それでは、先行研究を交えつつ論を進めてゆくこととする。

2.1 「主語＋是＋動詞句＋的」文型は「主語」部分と「動詞句＋的」部分の二者に分けられ、そして二者間に「是」を介在させる形式を採っている（勿論「是」が省略されることもあるが、¹で提起済み）。この様な「主語＋是＋動詞句＋的」文型に関して朱徳熙氏（1978）²は下記の様に述べている。

1 小王是第一个跳下水去的。

2 第一个跳下水去的是小王。

文例1は指称形式（「小王」）が前に在って分析形式（指照対象に対して陳述的説明を加える形式）が後に在り、文例2はその逆と成っている。文例1の様なものは分類を表し、文例2の様なものは「主語＝動詞句」と表していると述べている。当論文で取り上げる所は文例1の形式であるので、朱徳熙氏の論に従うと、文例1の様な形式は、主語部分の表す事物が「動詞句＋的」部分の表す性質を持つものであると分類される、と云う文意に解釈出来る、其処から更に、主語部分は「動詞句（「動詞句＋的」の動詞句）」部分の表す内容を性質として持つ媒

体である、と云う文意に解釈出来るに至る。詰まり、主語部分と「動詞句+的」部分を共に名詞的構造（又はこれに準ずる構造）と為し、両者の特性を擦り合わせることに因り、より一層説明的語調を強めていると云える。例えば「この本は北京で買った」と言う処を「この本は北京で買ったものである」と言った方がより説明的語調が強まると云った具合である。「主語+是+動詞句+的」文型に説明的語調が伴う所以はこれに起因する。

2.2 然し2.1の説明のみでは「主語+是+動詞句+的」文型が過去の意味を持ち得るに至る経緯を説明するには不足である。一説に「主語+是+動詞句+的」文型の過去の意味が文末の「的」に起因すると説明するものもある。例えば、宋玉柱氏（1981）³は下記の様に述べている。

3 哦，我忘了，老爷哪一天从矿上回来的？（《曹禺选集》19页）

4 你在哪儿学的蒸包子呀？（《老舍剧选集》242页）

5 他昨天晚上什么时候回来的？（《曹禺选集》20页）

文例3～5は過去の意味を表しているが、「的」を除去すると、過去の意味が喪失し、更には文自体も成立し得なく成るので、因って「的」には過去の意味を表す機能が備わっていると述べている。確かに一理有るが、単に「動詞句」に「的」を付加した処で、必ずしもその「動詞句+的」が過去の意味を持ち得る訳でもない。「主語+是+動詞句+的」文型が表す過去の意味は飽く迄「主語+是+動詞句+的」文型と相関連する複数要因が影響を及ぼし合うことに因って成り立っているのもあって、「的」のみに起因するものではないと判断するのが妥当であり、本論文は勿論その立場を採っている。

2.3 それでは、「主語+是+動詞句+的」文型の過去の意味は一体何処に源を發するのであろうか。史有為氏（1984）⁴は下記の様に述べている。

6 肩膀子红是扛锄头扛的。

7 腿疼是跑步跑的。

8 耳朵聋是大炮震的。

9 皮肤黑是太阳晒的。

10 手凉是在外面冻的。

11 腰疼是在车上挤的。

文例6～11では、「動詞句+的」部分の「動詞句」の表す動作活動が原因として発生した結果が主語部分の表す事物として発話時現在に於いて存在している、と解釈出来る。原因が存在し、結果がこれに追従するのが常であり、詰まり「動詞句+的」部分と主語部分の間に因果関係を見て取れるので、故に「動詞句」部分は已然義（現在完了的意味）を有するに至る、と説明している。動詞句部分が表す動作活動の発生終了を経て結果が生じ、已然義が発生し、その延長線上に主語部分の表す事物が存在している。已然義は発話時以前より発生し、発話時現在尚存続中であり、其処に発話時現在と発話時現在以前の間の時間差が確保される。動詞句部分は已然義の開始点と見做せるので、主語部分の表す所が発話時現在に存在するのに対し、動詞句部分が表す動作活動は繰り上がって発話時現在以前に存在することと成る。前後関係が生じることに因って、過去の意味を持ち得るに至っている。詰まりは已然義と云う土台の上に成り立っているのが「主語+是+動詞句+的」文型が表す過去の意味である。已然義は「動詞句+的」部分と主語部分間の因果関係に起因するものであるが、因果関係を見て取れるからと言って、必ず時間差や前後関係が生ずると云う訳でもない。原因と結果の発生が同時である場合も存在する故である。「主語+是+動詞句+的」文型が表す過去の意味は複数要因より生じるもので、因果関係のみに起因する訳でもない。

2.4 過去の意味を持つ典型的「主語+是+動詞句+的」文型には動詞句部分に状況語が付加されることが一般的であると述べられることも多い。趙淑華氏(1979)⁵は下記の様に述べている（一重下線部が状況語部分）。

12 那本教材是一九五八年编写的。

13 宴会是在人民大会堂举行的。

14 我们是骑车去的。

15 真理是在同谬误作斗争中发展起来的。马克思主义是这样发展起来的。

（《毛泽东选集》五卷416页）

16 这个宪法就是为这个目的而写的。（同上131页）

17 赵永进刚才那段话，好像就是针对自己这个思想来的。

上記文例12～17は趙淑華氏（1979）の挙げる所であるが，この様な文型は或る動作や状況が

既に完成又は実現した場合に専ら用いられ，動作の時間，道具，方式，目的，対象を強調説明するものであり，因って動詞の前には必ず状況語（文例12～17下線部）が置かれ，状況語を取り除くと文自体が成立し難く成ると説明している。その通りであって，この様な見解は常見する所である。すると動詞句部分に状況語を付加することは「主語＋是＋動詞句＋的」文型が過去の意味を持つことに対して何等かの影響を及ぼしているのであろうか。文例12の状況語は「一九五八年」なので当然大いに影響を及ぼしていると考えられるが，これは語義的特性でそう成っているのみであって，状況語として影響を及ぼしているかは又別儀である。其処で文例13～17の状況語を見て考えると，確かに動作の時間，道具，方式，目的，対象を説明しているのではあるが，過去の意味を生じさせることに対して影響を及ぼしているとは断言し難いと云える。牛秀蘭氏（1991）⁶が下記の様に述べている。

…「我是在照相馆照相的」の状況は更に複雑である。少なくとも三種類の意味が有る。一種類目は「私」が写真を撮った場所を強調するもの。二種類目は「私が写真館で写真を撮った人間である（他の場所で撮ったのではない）」と云う意味で，写真を撮られる側の人間に対する分類である。三種類目は「私は写真館の撮影師である」と云う意味で，写真を撮る側の人間に対しての分類である。

上記で三つの意味が提示されているが，過去の意味を持つ「主語＋是＋動詞句＋的」文型としては一種類目の意味がこれに相当していると云える。若し状況語が過去の意味を生じさせることに対して直接的に影響を及ぼし得るなら，この様に三種類の意味が並立することもなく，一種類目の意味のみで落ち着く筈である。更に

18 “你是怎么来的？”“是走来的。”

と云う具合に「是走来的」には特に動詞句部分の前に状況語が付加されていな

いが、過去の意味は依然として成り立っている。因って動詞句の前に置かれる状況語は過去の意味を生じさせることに対して直接的な影響を及ぼし得ないと判断するのが妥当である。但し「主語＋是＋動詞句＋的」文型自体が説明的語調の特性を強く有するものであるので、説明内容を補充する形で動詞句の前に状況語が頻繁に置かれることは至極当然の流れと云える。

2.5 少し纏めると、「主語＋是＋動詞句＋的」文型は、主語部分と「動詞句＋的」部分に分かれるが、主語部分と「動詞句＋的」部分が共に名詞的構造（又はこれに準ずる構造）と成ることに因り、主語部分は動詞句部分が表す内容を性質として持つ媒体であると説明する文意に成る。その上で動詞句部分と主語部分の間に因果関係が認められると已然義が生じ、主語部分の表す事物が存在する発話時現在と已然義の起点である動詞句部分の表す動作活動の存在時間の間には時間差や前後関係が生じ、結果として過去の意味を持つに至っている。因果関係は過去の意味を形成する上での重要要素ではあるが、然し原因と結果の発生が同時である場合も存在し、因果関係を見て取れば必ず時間差や前後関係を生じさせて過去の意味を持ち得ると云う訳でもない。

2.6 筆者は当方面に関する一定程度の研究を既に行っており（2009, 2013）、その中で「主語＋是＋動詞句＋的」文型と已然義、過去の意味についての関連性を相応に述べているのであるが、矢張り尚も論を尽くせていない感が否めない。当論文に於いては上述の先行研究や筆者の従来の研究結果を踏まえた上で、「主語＋是＋動詞句＋的」文型の主語部分や動詞句部分の性質に更に焦点を当てて論を進めてゆきたいと思う。

3 それでは、如何様な場合の「主語＋是＋動詞句＋的」文型が過去時意味を持ち得るのか考えてゆきたいと思う。「主語＋是＋動詞句＋的」文型は「主語」部分と「動詞句＋的」部分の二者に分けられ、更に二者間に「是」を介在させる形式を採っているが（勿論「是」が省略されることもあるが、¹で提起済み）、全体的文意として主語部分の表す事物が「動詞句（「動詞句＋的」の動詞句部分）」が表す内容を性質として持つ媒体である、と云うのが基本的文意である。

3.1 次に挙げる文例19～22は過去の意味を持つ「主語＋是＋動詞句＋的」文

型の典型例である（一重線は主語，二重線は「動詞句+的」，以下同断）。

- 19 “张五哥，”康熙半闭着眼问道：“你是下头百姓里来的。据你看，哪个阿哥最好？”（雍正皇帝）
- 20 阎文应把声音压得更低：“杜提刑说，孙大虫的罪绝不可赦。如果他曹将军再干涉刑狱，连他也要问个包庇下属之罪！”“什么？”曹汭一听，气得差点儿跳起来，被阎文应一把按住。“他真是这么说的？”（仁宗皇帝）
- 21 胤禛点了点头，问道：“范时捷，我府里一个书僮，叫你的人拿了，他犯了什么事？”范时捷耸了耸小胡子，一本正经地说道：“四爷，府上奴才狗儿在四牌楼因欺负一个买鸡蛋的，引起口角，是理蕃院的姜芝和礼部的刘典撞见了，扭送顺天府的。这事惊动到理蕃院，不审就放，恐怕不好。”（雍正皇帝）
- 22 老父母请看，这可是当今书画名家郑板桥的真迹。郑板桥性行怪僻，从不肯轻易授人墨宝。这副真迹乃是徐某花大价钱从他身边书僮手上买到的。因为听说大人也喜好，擅长于字画，所以拿来孝敬大人。（刘墉）

文例19は発話時現在に於いて主語部分「(康熙帝に仕えていて、既に下々の庶民の間より離れている) 你」が動詞句部分「下头百姓里来」と云う内容を性質として持つ媒体であると表す文意と成る。動詞句部分と主語部分の間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「下头百姓里来」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(康熙帝に仕えていて、既に下々の庶民の間より離れている) 你」が存在しているので、動詞句部分「下头百姓里来」は結果として過去の意味を持つに至る。文例20は発話時現在に於いて主語部分「(孫大虫の罪は許されないものであり、曹將軍が裁きの件に口を出す様なら、自身の家来を庇った罪を問わなければ成らぬと発言し終わっている杜提刑の) 他」が動詞句部分「这么说」と云う内容を性質として持つ媒体であると表す文意と成る。動詞句部分と主語部分の間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「这么说」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(孫大虫の罪は許されないものであり、曹將軍が裁きの件に口を出す様なら、自身の家来を庇った罪を問わなければ成らぬと発言し終わっている杜

提刑の) 他」が存在しているので、結果として過去の意味を持つに至る。文例21は発話時現在に於いて主語部分「(罪を犯して范时捷に捕らえられてしまっている胤禛の屋敷の小姓の) 府上奴才狗儿」が動詞句部分「理蕃院的姜芝和礼部的刘典撞见了, 扭送顺天府」と云う内容を性質として持つ媒体であると表す文意と成る。動詞句部分と主語部分の間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「理蕃院的姜芝和礼部的刘典撞见了, 扭送顺天府」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(罪を犯して范时捷に捕らえられてしまった胤禛の屋敷の小姓の) 府上奴才狗儿」が存在しているので、結果として過去の意味を持つに至る。文例22は発話時現在に於いて主語部分「(既に徐某の手元に存在している) 这副真迹」が動詞句部分「徐某花大价钱从他身边书僮手上买到」と云う内容を性質として持つ媒体であると表す文意と成る。動詞句部分と主語部分との間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「理蕃院的姜芝和礼部的刘典撞见了, 扭送顺天府」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(既に徐某の手元に存在して居る) 这副真迹」が存在しているので、結果として過去の意味を持つに至る。文例19～22は動詞句部分と主語部分の間に因果関係が見て取れ、主語部分が表す所は発話時現在に於いて存在する特定の事物であり、尚且つ動詞句部分の表す動作活動が発話時現在に於いては発生していないと判断出来るので、その表す所の動作活動は発話時現在に於いて既に発生終了したものと見做せ、茲に時間差や前後関係が生じ、結果として過去の意味を持つに至っている。主語部分や「動詞句+的」部分の特性が「主語+是+動詞句+的」文型の過去の意味の成立に深く関わっていることは非常に明白である。因って次に主語部分や「動詞句+的」部分の特性に焦点を当てて論を進めたいと思う。

3.2 先ず主語部分の特性について考えてみたいと思う。前述3.1の場合、主語部分の表す事物は発話時現在に於いて存在する何等かの特定事物であり、更にその発話時現在に於ける存在状態が話し手や聞き手によって把握されているものである。そして動詞句の表す動作活動が主語部分の表す事物の存在する発話時現在に於いては既に発生終了しているとは見做せるものである。然し主語部分

の表す所が常に必ず何等かの特定事物である訳でもないので、その様な場合は過去の意味を持ち得なく成る。この点については3.2.3で後述させて頂く。

3.2.1 主語部分の表す事物が発話時現在に於いては実体を伴わない話題（特定される事物に対する話題）としてのみ存在している場合について、詰まり主語部分が表す事物は発話時現在以前に於いて嘗て存在したが、発話時現在に於いては既にその事物が終了消失してしまっていると見做せる場合についてである。主語部分の表す所は、話題として発話時現在に於いて提起されているが、実体自体は発話時現在以前に嘗て存在したものと見做せる。すると発話時現在以前に存在した実体に関連して発生する動詞句部分が表す動作活動の存在時間もこれに追隨して発話時現在以前へと繰り上がり、結果として全体的に過去の意味を持つに至る。

23 李静婵因病被幽禁在后宫，他也曾有所耳闻，如今刘采苹却说李静婵死了，什么时候死的？（仁宗皇帝）

24 我说刘大人，徐五这小子可不好斗啊。他有钱有势，连巡抚大人都搬得动，前任的知府王大人就是被他挤兑走的。（刘墉）

文例23の主語部分「(既に死んだと言われている) 李静婵」は発話時現在に於いて既に死んだことに成っている。動詞句部分「什么时候死」と主語部分「(既に死んだと言われている) 李静婵」の間には因果関係が見て取れるので、発話時現在以前の段階に在って、動詞句部分「什么时候死」の表す動作活動が発生終了したと見做せる。又主語部分「(既に死んだと言われている) 李静婵」の実体も発話時現在以前で消失し、発話時現在に於いては発話者が提起する話題としてのみ存在している。文例24の主語部分「(前任者と成ってしまい、既にその場には居ない) 前任的知府王大人」は発話時現在に於いて既にその場より消失した状態と成っている。動詞句部分「被他挤兑走」と主語部分「(前任者と成ってしまい、既にその場には居ない) 前任的知府王大人」の間には因果関係が見て取れるので、発話時現在以前の段階に在って、動詞句部分「被他挤兑走」の表す動作活動が発生終了したと見做せる。又主語部分「(前任者と成ってしまい、既にその場には居ない) 前任的知府王大人」の実体は発話時現在以前で消失し、発話時現在に

於いては発話者が提起する話題としてのみ存在している。文例23, 24とも主語部分の表す事物の実体は発話時現在以前に存在するので、これに追隨して動詞句部分の表す動作活動の発生終了時間もそれと同時、又はそれより更に以前へと繰り上がる。詰まりは、主語部分の特性に引っ張られて、文意全体が過去の意味を持つに至る。この様な場合については4.2に於いても更に動詞句の特性を交えつつ後述させて頂く。

3.2.2 又逆の場合も存在する。発話時現在に於いては主語部分の表す事物は未発生未存在で話題としてのみ存在しており、発話時現在以後に於いて実体が発生存在する筈であろうと云うものである。詰まり、主語部分の表す所は話題として発話時現在に存在しているが、実体自体は発話時現在以後に存在する筈のものと見做せるのである。すると発話時現在以後に存在する筈の実体に関連して発生する「動詞句+的」部分が表す動作活動の発生終了時間も発話時現在以後へと繰り下がり、因って主語部分の特性に引っ張られて、文意全体が未来的意味を持つに至っているのである。

25 “圣旨在何处？”“是宫里的公公亲自送来的，随后就到。”（刘墉）

26 我这回去刑部，要做铁脸王爷，是伸国法、顺民气去的。（雍正皇帝）

文例25, 26の場合、主語部分「圣旨」「我这回去刑部」の表す所が発話時現在に於いて話題（特定される事物に対する話題）としてのみ存在しており、実体自体は発話時現在以後に於いて存在する筈のものであって、発話時現在時点に於いては未発生未存在のものと見做せる。話題としては発話時現在に存在しているが、実体自体は発話時現在以後に存在する筈のものである。すると発話時現在以後に存在する筈の実体に関連して発生する動詞句部分「宫里的公公亲自送来」「伸国法、顺民气去」が表す動作活動の発生終了時間も発話時現在以後へと繰り下がり、結果として全体的に未来的意味を持つに至る。

3.2.3 前出文例19~26の場合、主語部分の表す事物が発話時現在に於いて特定される実体（又は話題）として存在するものであり、其処から発話時現在と云う時間的基準点が確立され、これを根拠として過去又未来的意味が生じるに至っている。然し若し主語部分の表す事物が不特定のものである場合、状況が

変わってくる。文例27, 28がその例である。

- 27 主子您又来了！这非礼勿行是圣人之教，奴才不敢奉诏。就是教训阿哥也是拿着太子太傅的身份管教的。（雍正皇帝）
- 28 第二种人也是满腹经纶，但不像第一种人那样读死书死读书，他能把所读内容部分用于为人处事之中…按照老百姓的一句话是喝死牛血长大的。（刘墉）

文例27では「教训阿哥」が「日々に於いて皇子に注意を与える」場合を指しており，文例28では「第二种人」が「一般的に言う二種類目の人」を指しており，主語の表す事物が必ずしも発話時現在に限定されて存在していると云う訳でもなく成り，主語部分が表す筈であった発話時現在と云う時間的基準点も不明瞭と成り，結果として過去又未来的意味を表し得なく成る。この様なものは一般論の様相を呈し，文意全体として時間的概念と余り縁の無い場合が多く成る。主語部分が動詞句部分の表す内容を性質として持っている，と漠然と説明するのみと成る。

3.2.4 又，主語部分の表す所が仮定された事物である場合，非現実的動作活動に対する話題と見做せ，文例27, 28と同様に文意全体として時間的概念とは余り縁の無いものと成る。文例29, 30がその例である。

- 29 她想把曹利用这颗眼中钉拔掉的想法，吕夷简也一清二楚。然而他明白：单凭曹汭犯的这点儿罪，想动摇曹利用的宰相之位，是无法服众的。（仁宗皇帝）

- 30 又知道了大阿哥魔昧的事，圣心尚在犹豫。太子纵有过错，也是教人害的，这就有保奏余地。（雍正皇帝）

文例29, 30主語部分「单凭曹汭犯的这点儿罪，想动摇曹利用的宰相之位」「太子纵有过错」が表す所は飽く迄仮定された事物，詰まり非現実的動作活動に対する話題であり，実在するものではない。因って文意全体として時間的概念と余り縁の無い場合が多く，主語部分が動詞句部分の表す内容を性質として持っている，と漠然と説明するのみと成る。

3.2.5 主語部分の表す事物が発話時現在に於いて，特定される事物か否か，

実体として存在するのか、又は話題としてのみ存在するのか。更に実体として存在する場合、如何様に存在するのか、加えて主語部分が表す事物の存在状態より動詞句部分の表す動作活動が発話時現在に於いて発生中か否か判断出来るか、主語部分が表す事物の発話時に於けるこれ等周辺状況は「主語＋是＋動詞句＋的」文型が過去の意味の意味を持つ上で大変重要な要素と成る。

3.3 次に「動詞句＋的」部分の特性について考えてみたいと思う。

3.3.1 「動詞句＋的」部分の表す所は、飽く迄当部分が「動詞句が表す内容を性質として持つ媒体」であると示すのみで、時間的概念とは固より無縁のものである。前出文例19～22は過去の意味を持つ「主語＋是＋動詞句＋的」文型の典型例であるが、「動詞句＋的」部分の観点より再度解釈を加えると、以下の通りである。文例19は発話時現在に於いて主語部分「(康熙帝に仕えていて、既に下々の庶民の間より離れている) 你」が動詞句部分「下头百姓里来的(下々の庶民の間から遣って来た)」と云う内容を性質として持つ媒体であると表している。動詞句部分「下头百姓里来的」自体はその様な内容を性質として持つ媒体であると表すのみで、過去の意味とは基本的に無関係である。然し動詞句部分「下头百姓里来」が前述の因果関係に因り、発話時現在以前に既に発生終了した動作活動と見做せるので、「動詞句＋的」部分が「下々の庶民の中から遣って来た」と云う内容を性質として持つ媒体と見做され、更に「発話時現在以前に於いて動作活動が発生終了した事実を持つ」と云う已然義の意味を持つ媒体であると見做され、最終的に其処から過去の意味を持つに至っている(文例20～22も同断)。動詞句部分の表す動作活動は発話時現在以前に発生終了したものであると見做される必要が有る為、動詞句部分の表す動作活動が発話時現在に於いては発生していないと判断出来ない、仮に因果関係を見て取れたとしても、「動詞句＋的」部分と主語部分との間に前後関係を生じさせるだけの時間差を築くことが出来ず、過去の意味を表し得ない。文例19の主語部分については、発話時現在に於いて主語部分「(康熙帝に仕えていて、既に下々の庶民の間より離れている) 你」であるので、動詞句部分「下头百姓里来的」が発話時現在に於いて発生していないことが分かる(文例20～22も同断)。次の文例31～34も過去の

意味を持つ「主語＋是＋動詞句＋的」文型の典型例である（勿論主語部分の表す事物が発話時現在に於いて存在する何等かの特定事物であるもの）。

- 31 刘墉左右瞧瞧，门对过有四颗枣树，门楼子是青灰抹的，记准之后，才溜达着回府衙了。（刘墉）
- 32 其余几人互相看了看，抓耳挠腮谁也对不出下联。很快来到一座楼前，此楼名为观月楼，专门为中秋、元宵赏月而建造的。（刘墉）
- 33 我这里有一份揭帖，写得极阴损，是刑部接过来，我叫扣住了不往里头递的。（雍正皇帝）
- 34 张廷玉心中雪亮，康熙今儿这股怒气，全是佟国维撩拨起来的，但佟国维现是国舅，后头是八阿哥胤祀强大的势力，自己一个汉臣，如何敢跻身其间？（雍正皇帝）

文例31は発話時現在に於いて主語部分「(既に完成された状態でその場に存在している) 门楼子」が動詞句部分「青灰抹」と云う内容を性質としてを持つ媒体であると表している。動詞句部分と主語部分の間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「青灰抹」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(既に完成された状態でその場に存在している) 门楼子」が存在しているので、従って動詞句部分「青灰抹」は発話時現在に於いて発生していない動作活動と見做せ、結果として過去の意味を表すに至る。文例32は発話時現在に於いて主語部分「(既に完成された状態でその場に存在して居る) 观月楼」が動詞句部分「专门为中秋、元宵赏月而建造」と云う内容を性質として持つ媒体であると表している。動詞句部分と主語部分の間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「专门为中秋、元宵赏月而建造」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(既に完成された状態でその場に存在して居る) 观月楼」が存在しているので、従って動詞句部分「专门为中秋、元宵赏月而建造」は発話時現在に於いて発生していない動作活動と見做せ、結果として過去の意味を表すに至る。文例33は発話時現在に於いて主語部分「(既にその場に存在している) 揭帖」が動詞部分「刑部接过来，我叫扣住了不往里头递」と云う内容を性質として持つ媒体であ

ると表している。動詞句部分と主語部分の間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「刑部接过来，我叫扣住了不往里头递」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(既にその場に存在して居る) 揭帖」が存在しているの、動詞句部分「刑部接过来，我叫扣住了不往里头递」は従って発話時現在に於いて発生していない動作活動と見做せ、結果として過去の意味を表すに至る。文例34は発話時現在に於いて主語部分「(既にその場に発生存在して居る) 康熙今儿这股怒气」が動詞句部分「佟国维撩拨起来」と云う内容を性質として持つ媒体であると表している。動詞句部分と主語部分の間に因果関係が成り立ち、発話時以前に於いて動詞句部分「佟国维撩拨起来」と云う動作活動が発生終了したことに因って発話時現在に於いて主語部分「(既にその場に発生存在して居る) 康熙今儿这股怒气」が存在しているの、従って動詞句部分「佟国维撩拨起来」は発話時現在に於いて発生していない動作活動と見做せ、結果として過去の意味を表すに至る。

3.3.2 又少数乍ら逆の場合も存在する（勿論主語部分の表す事物が発話時現在に於いて存在する何等かの特定事物であるもの）。

35 凌普如今在承德已经做到副都统，还有托合齐、齐世武、英斌，进京是见皇上述职的。（雍正皇帝）

文例35の発話時現在に於ける主語部分「(上京してきている) 凌普、托合齐、齐世武、英斌」が発話時現在以後に於いて「见皇上述职」と云う動作活動を発生させるであろうと云う内容を性質として持つ媒体であると表す。「動詞句+的」部分と主語部分の間に因果関係は見取れず、動詞句部分が表す動作活動も発話時現在以後に於いて発生終了する筈のものであると見做せ、全体的に未来的意味を表す。

3.3.3 文例36～39は動詞句部分の表す所が発生終了した動作行為と見做せない場合についての文例である（勿論主語部分の表す事物が発話時現在に於いて存在する何等かの特定事物であるもの）。動詞句部分が一定状態を表す例である。

36 “你从军西征，以一员微末偏将，先斩后奏，杀掉陕西总督葛礼。” … “我当什么大不了的。这都是人人都知道的。”（雍正皇帝）

- 37 “是……黑店” “一点不假，是绿林里有字号的，黑风黄水店。”（雍正皇帝）
- 38 尧黜丹朱太子，寻个安静去处，好生侍候着养老，是一种法子，汤放太甲，改过自新三年复位。又是一种法子，李世民处置太子太忍心，皇上是要名声的，未必出此下策。（雍正皇帝）
- 39 刘墉不是自诩清正廉明吗？如果有人告他贪赃枉法。清正廉明之名，岂不攻自破。他是侦破清风店血案而响名金陵的，我就让他这案子上跌倒。（刘墉）

文例36～39は発話時現在に於いて主語部分の表す事物である「这」「黑风黄水店」「皇上」「他」が動詞句部分「人人都知道」「绿林里有字号」「要名声」「侦破清风店血案而响名金陵」の表す内容（一定状態）を性質として持つ媒体であると表している。動詞句部分が表すこの様な一定状態は開始終了の概念に欠落しているので、主語部分が発話時現在に於いて動詞句部分の表す状態下に在ると表すのみである。主語部分の表す事物の実体が存在する時間帯に追隨して動詞句部分の表す一定状態も存在するので、文例36～39は発話時現在の状態を説明する文意としか成らず、過去の意味は持ち得ない。

3.3.4 次も同様に「動詞句」部分の表す所が発生終了した動作行為と見做せない場合についてである（勿論主語部分の表す事物が発話時現在に於いて存在する何等かの特定事物であるもの）。

- 40 “还求刘大人在皇上面前法外开恩！” “大人放心，本官是会秉公办理的！”（刘墉）
- 41 刘墉越想越觉得和珅可疑，但和珅是内务府大臣，是皇上面前的宠臣，如今才能确凿的证据面前直接审讯和珅，皇上万万不会答应的。（刘墉）

文例40, 41の「動詞句+的」部分は「会秉公办理的」「不会答应的」である。この様な「(不)会……的」について龍海平，王耿（2011）⁷は「非現実である事件が発生する可能性に対する推測」を示すものであると述べている。動詞句部分は現実に発生する物事如何ではなく，単に動詞句が表す内容を性質として持つ媒体であると表すのみと成り，要するに主語部分が発話時現在に於いて動詞句部分が表す性質を持っていると表すのみに成る。この様な「動詞句+的」は

他にも存在する。文例40, 41は動詞句部分に助動詞「会」が付加されているが、基本的に助動詞が付加される「動詞句+的」は全て単に動詞句が表す性質を持つ媒体であると表すのみである。

42 我虽不识宦途，听得出你们都是要指日高升的。（雍正皇帝）

43 奴才自己有十几处庄子，俸禄之外皇上又不时恩赏，怎么敢背君妄为？连张马二位，奴才也敢保的！（雍正皇帝）

44 皇上说的极是！儿子昨晚也是反复掂量，承德这场风波又吓人又出奇，太蹊跷。二弟不是个胆大人，他断不敢称兵逼宫的。（雍正皇帝）

文例42～44も同様で、主語部分「你们」「奴才」「他」が発話時現在に於いて動詞句部分「要指日高升的」「敢保的」「断不敢称兵逼宫的」が表す内容を性質として持っている表すのみと成る。

45 雅步从容仪态万方，並不受之父母，各兄弟间也只揖让而已。所以无论父子、兄弟、骨肉亲情天伦之乐都是说不上的。（雍正皇帝）

46 章得象却哭无泪，但他明白：一个小小的翰林学士，是绝对抗不过皇权的。（仁宗皇帝）

47 老爷相亲时不穿官服，一身平常人装束，然后在背上背着一只斗笠，用斗笠盖在驼背的位置上，不知道的人从外表是看不出来的。（刘墉）

文例45～47の様な可能不可能を表す表現が含まれている場合も同様で、主語部分「父子、兄弟、骨肉亲情天伦之乐」「一个小小的翰林学士」「不知道的人」が発話時現在に於いて動詞句部分「说不上」「绝对抗不过皇权」「看不出」が表す内容を性質として持っている表すのみと成る。

時間的概念と無縁で、主語部分の表す事物が存在する時間帯に追隨して動詞句部分が表す性質も存在することとなるので、文例40～47とも発話時現在に於ける主語部分の性質を説明する文意としか成らず、過去の意味は持ち得ない。

3.3.5 少し纏めると、「動詞句+的」は飽く迄「動詞句の表す性質を持つ媒体」であると表すに止まる。過去や未来と云った時制的概念や動作活動が如何様な状況下に在るか云った時相的概念とは固より無縁のものである。その様な中に在って、動詞句部分の表す所が発生した後に終了し得る動作行為と見做

せる場合、過去又未来的意味を採り得るのである。動詞句部分の表す所が状態である場合、一定の状態を表し、動詞句の表す所が性質である場合、一定の性質を表し、その存在時間は主語部分が表す事物の実体が存在する時間帯に追隨する。

4 上記3では主語部分と「動詞句+的」部分を分けて述べてきたが、此処では二者を関連付けて更に論を進めたいと思う。

4.1 「主語+是+動詞句+的」文型が過去の意味を持つ典型的場合は下記の通りである。

甲、主語部分について

- ・主語部分の表す所が発話時現在に於いて存在する特定の事物である。
- ・主語部分が表す事物の周辺状況が把握されている。

乙、「動詞句+的」部分の動詞句について

- ・動詞句部分の表す所が発生した後に終了し得る動作行為と見做せる。
- ・発話時現在に於いて動詞句部分の表す動作活動が発生していない。

丙、主語部分と「動詞句+的」部分関連性について

- ・「動詞句+的」部分が原因で主語部分が結果と云う形の因果関係を見て取れる。

上記の様な甲～丙の各項目で示される条件を満たして初めて「主語+是+動詞句+的」文型が過去の意味を持つに至る。この様な過去の意味は最も典型的なものである。因みに過去の意味を持ち得る場合は外にも考えられるので後述する。

4.1.1 時に因果関係が認められても過去の意味に成らない場合も存在する（勿論主語部分の表す事物が発話時現在に於いて存在する何等かの特定事物であるもの）。

48 老者显然经见过世面，叹息一声，从褡裢中取出几块碎银，双手捧到胖子跟前，恭恭敬敬地说：“这点小意思算是孝敬爷的，求军爷早点打开城门。”（刘墉）

動詞句部分「孝敬爷」の結果として主語部分「这点小意思」が存在すると見做せ、因果関係を見て取れるのではあるが、前後関係や時間差迄は成り立たない。

動詞句が表す動作活動が全て発話時現在のその場で行われている故である。乙の「発話時現在に於いて動詞句部分の表す動作活動が発生していない」に抵触する訳である。

4.1.2 「動詞句+的」部分の動詞句部分が過去の意味を持っているか否かを断言し辛い場合も存在する。例えば「我是来留学的。」と言った場合に、主語部分「我」が現地到着間も無くの時に発言したのであれば、「来」については過去の意味と判断出来るが、「留学」については今後の事と成り未来的意味と成る。一動詞句部分内に過去の意味と未来的意味の両者が混在していることに成る。又主語部分「我」が留学し終えて幾年も経ってから発言したのであれば、現地に遣って来て更に留学もした、と表す訳で、普通に過去の意味を持つ「主語+是+動詞句+的」文型と成る。然しこの様な文型の場合、前者の形式で用いられる場合が多い。一動詞句部分内に過去又未来的意味の両者が混在する為には、主語部分が現地に到着したばかりで物事を為し得るのは今後であると云う様なことが主語部分の周辺状況として把握されていることが特に不可欠である。文例49～52はその文例である。

49 我说兄弟，你可真有闲心，咱们是干啥来的？五天的期限办不成事，就等着挨板子吧！（刘墉）

50 两人进城，到一家酒铺歇歇脚，吃点东西。酒保殷勤招待，满脸是笑地说：“一看二位是从府城来的，来赴孟兰盆会的吧？”（刘墉）

51 不大工夫，里头出来个工人，问无双道：“姑娘，有冤屈要诉吗？”“我是来找人的！”（仁宗皇帝）

52 胤禛一回头，见高福带着坎儿和狗儿在外头廊下笑，知道是狗儿的事毕，进来回话的，便道：“你们懂什么？叽叽嘎嘎成什体统？”（雍正皇帝）

文例49～52であるが、「来」「来」「来」「进来」の結果として主語部分「咱们」「二位」「我」「高福、坎儿、狗儿」が発話時現在に於いてその場に存在するもので、因果関係が生じ、因って「来」「来」「来」「进来」の過去の意味は見取れるが、一方「干啥」「赴孟兰盆会」「找人」「回话」は発話時現在に於いて未発生であり発話時現在以後に発生終了し得る動作活動と見做せ、未来的意味

を持つに至り、結果として動詞句部分内に過去又未来的意味の両者が混在していることに成る。「動詞句+的」部分に何故この様に過去又未来的意味の両者が混在し得るのかと云えば、「動詞句+的」部分の表す所は飽く迄それが動詞句の表す内容を性質として持つ媒体であると表すのみで、時間的概念や時相的概念とは固より無縁のものである故である。因って状況次第で如何様にも変化し得るのである。

4.2 又、主語部分の表す所が発話時現在に於いて話題（特定される事物に対する話題）としてのみ存在し、事物の実体は発話時現在以前に存在したものと見做せる場合、「動詞句+的」部分が表す所の存在時間もこれに追隨して発話時現在以前へと繰り上がるので、全体的に過去の意味を持ち得るに至る。

53 其实小人平日对表妹和表妹夫很感激。因为他们对小人兄妹很不错。我妹子青儿收养在他们家，表妹夫从无怨言。小人所以做出对不吃他的事，都是伊小六唆使的。（刘墉）

54 话说回来，这两件善事，其实都是在情急之下不加思索做出来的。（仁宗皇帝）

55 小人店里，昨夜发生一起凶杀人命案，没有被告，也没有原告。因是在小民店里发生的，所以，小民请地保一同前来县衙报案。（刘墉）

56 你何时问过丁丞相？丁丞相原话是怎么说的？倘若有个半个字的差错，本宫绝不饶恕你！（仁宗皇帝）

57 胤禛这件事是有的，不过当时委婉得多，再想不到这么光明正大的谏诤也变成了“不孝”（雍正皇帝）

文例53～56は動詞句部分「伊小六唆使」「在情急之下不加思索做出来」「在小民店里发生」「怎么说」と主語部分「小人所以做出对不吃他的事」「这两件善事」「丁丞相原话」「丁丞相原话」の間に因果関係を見て取れるので、動詞句部分の表す性質が存在する時間帯も主語部分が表す事物の実体の存在する発話時現在以前又は更にそれ以前へと繰り上がる。文例57の動詞句部分「有」（「有」は動詞であって動詞句ではないが、用語は「動詞句部分」で統一させて頂く）は一定状態を表すものである。主語部分「胤禛这件事」発話時現在以前に存在した事物な

ので、動詞句部分「有」が表す一定状態の存在時間もこれに追隨して発話時現在以前に繰り上がり、3.2.2でも述べた通り結果として過去の意味を持つに至る。

4.3 又「動詞句+的」部分に対して過去の時間帯を限定する様な成分（波線部分）が付加される場合も、当然乍ら過去の意味を持ち得る。文例58～64がその文例である。

58 杜大人是刚刚才当提刑的吧？总该明白这契约就是最好的收据。

（仁宗皇帝）

59 小人也刚听说的。杀的那人叫张五哥，事别人的替身！（雍正皇帝）

60 老夫这里一切都好说，只怕皇上不会恕你的罪，快说说你刚才是如何将皇上气走的，让老夫帮你想想办法度过这场劫难。（刘墉）

61 老施原本要上折子弹劾十哥的，是我拦住了，他们明是冲我，其实做的太子爷的文章看看再说，忙怎的？（雍正皇帝）

62 东厢住的两个孝廉，也是后晌才到的。（雍正皇帝）

63 听你们的意思，觉得太子叫你们回来，其实是朕反复斟酌定了的，与他们告状无关。（雍正皇帝）

64 奴叫乔姐儿，其实在江夏也见过十三爷的。（雍正皇帝）

文例58～62は「刚刚」「刚」「刚才」「原本」「后晌」と云う成分が付加されることに因り、動詞句部分の表す存在時間が発話時現在以前へ強制的に繰り上げられている例である。又文例63, 64は動態助詞「了」「过」が付加されることに因り、動詞句の表す所が完了したものである又は過去の経験であると表し、これに因り動詞句部分の表す所の存在時間が発話時現在以前へ強制的に繰り上げられている。

5 今迄述べてきた所より、「主語+是+動詞句+的」文型が過去の意味を持ち得るのは以下3種類の場合が考えられる。

1 種類目

- ・前述4.1で述べた通りのもので、最も典型的な過去の意味を持つ「主語+是+動詞句+的」文型である。

2 種類目

- ・ 前述4.2で述べた通り、「主語＋是＋動詞句＋的」文型の主語部分の表す所が発話時現在に於いて話題（特定される事物に対する話題）としてのみ存在し、事物の実体は発話時現在以前に存在したものと見做せる場合。

3 種類目

- ・ 前述4.3で述べた通り、「動詞句＋的」部分に対して過去の時間帯を限定する様な成分が付加される場合。

正式には以上3種類の場合が考えられるのであるが、前述4.1.2で述べた様な「動詞句＋的」部分の表す所に過去又未来的意味の両者が混在する場合も存在する。以上、「主語＋是＋動詞句＋的」文型が表す過去の意味が如何様なる経緯を経て成り立っているのかを述べてきた。「主語＋是＋動詞句＋的」文型は元来が「A 是 B (A は B である)」文型で、極めて単純な構造である。その様な単純構造が過去の意味等と云った比較的複雑な意味を持ち得るのは相関連する複数要因が影響を及ぼし合うことに因ってその様に成り立っているのである。

【注】

- 1 「主語＋是＋動詞句＋的」文型の「是」部分は省略されることも多い。又当文型の「動詞句」部分についてであるが、動詞句部分に状況語を伴うもの、又動詞句の表す動作活動の動作主を内に含めるものも全て纏めて「動詞句」としている。
- 2 原文：

小王是第一个跳下水去的 (S1)。
 第一个跳下水去的是小王 (S2)。

前一句是对于小王这个对象的性质的陈述，即“小王”是“第一个跳下水去的”那样的人；后一句表示等同，即确认“第一个跳下水去的人”和“小王”之间的同一性（第一个跳下水去的不是别人，是小王）。 “的”字结构和判断句（下） 1978
- 3 原文：

(1)哦，我忘了，老爷哪一天从矿上回来的？（《曹禺选集》19页）
 (2)你在哪儿学的蒸包子呀？（《老舍剧选集》242页）
 (3)他昨天晚上什么时候回来的？（《曹禺选集》20页）

上面的“的”字都表明该句所述的动作发生于过去的时间。这可以从以下三个方面得到证明：

第一，有的句子去掉“的”字，就会改变所述动作的时间。如例（1）去掉

“的”字，全句所述就成为将要发生的事，属于将来时了。

第二，有的句子去掉“的”字，句子就不通了。如例（3）去掉“的”字，全句就站不住。这是因为时间状语“昨天晚上”指明的是过去时间，而“什么时候回来”却表明将来时间两者互相矛盾。只有加上时间助词“的”，才能与时间状语表示的过去时间相一致。可见“的”的作用在于表示过去式。

第三，“的”字决不能加在表明将来时的句子中，。例如“你明天什么时候回来的？”就不成话。

从以上三点可以看出，“的”字是表示过去时的时间助词。

关于时间助词“的”和“来着” 1981

4 原文：

“肩膀子红是扛锄头扛的。”这类句型本文记为 Sf。它们有三种表现形式：

i 肩膀子红是扛锄头扛的。

腿疼是跑步跑的。(A 是“VN”)

ii 耳朵聋是大炮震的。

皮肤黑是太阳晒的。(A 是“施事”)

iii 手凉是在外面冻的。

腰疼是在车上挤的。(A 是“处所”)

1) T 与“AV 的”之间存在着因果关系，因此无论是 T 还是“AV 的”都是已经实现了的，也就是说，整个句子是已然义的。…… 表已然义的“的 b”补议 1984

5 原文：

第二类“是……的”句，“是”不是谓语中的主要动词，它一般放在动词或状语之前，表示强调；“的”放在动词之后，表示动态。这类句子只用于某一动作、情况已经完成或实现的场合。谓语要说明的重点并不是动作本身或情况本身，而是与动作情况有关的某一方面。有几种不同的方式：

(一) 主语 II “是” + 状语 + 动词 + (+ 宾语)

这种句式要强调的是动作的时间、地点、工具、方式、目的或对象等，所以动词前总是有状语的。如果去掉了状语，整个句子就不成话。例如：

① 那本教材是一九五八年编写的。

② 宴会是在人民大会堂举行的。

③ 我们是骑车去的。

④ 真理是在同谬误作斗争中发展起来的。马克思主义是这样发展起来的。
(《毛泽东选集》五卷416页)

⑤ 这个宪法就是为这个目的而写的。(同上131页)

⑥ 赵永进刚才那段话，好像就是针对自己这个思想来的。

关于“是……的”句 1979

6 原文：

“我是在照相馆照相的”情况更复杂一些。至少有三种意思。第一种强调“我”照相的地点；第二种是“我是在照相馆照相的人（不在别的地方照）”，这是对被照相者

的分类；第三种是“我是照相馆照相的摄影师”，这是对照相者的分类。

关于“是…的”结构句的宾语位置问题 1991

7 原文：

…从这个角度“S（是）会VP的”句式所表达含义修正为“对非现实事件发生可能性的推测”。

“S（是）会VP的”句式的形成 2011

【参考文献】

- 朱德熙 1978 “的”字结构和判断句（下）《中国语文》第2期 中国社会科学院语言研究所
- 赵淑华 1979 关于“是……的”句《语言教学与研究》第1期 北京语言大学
- 宋玉柱 1981 关于时间助词“的”和“来着”《中国语文》第4期 中国社会科学院语言研究所
- 史有为 1984 表已然义的“的b”补议《语言研究》第1期 华中科技大学中国语言研究所
- 牛秀兰 1991 关于“是…的”结构句的宾语位置问题《世界汉语教学》第3期 北京语言大学
- 龙海平、王耿 2011 “S（是）会VP的”句式的形成《汉语学习》第1期 延边大学
- 栗原千里 2009 「是…的」構文と過去時制について『桜文論叢』第73卷283～300頁 日本大学法学部
- 栗原千里 2013 「是…的」構文と已然義の關係について『桜文論叢』第84卷89～115頁 日本大学法学部

【参照資料】

- 《雍正皇帝—九王夺嫡〈上〉》 1999 二月河著 巴比伦出版社
- 《刘墉〈上〉》 2001 赵辉著 北京图书馆出版社
- 《赵宋王朝·仁宗皇帝〈上〉》 2007 李芝亮著 江苏文艺出版社